

### ◆甘木市

投稿日：2002年12月10日

氏名：古賀 博

所属：水道課浄水係

(明日があるさオフサイト世話人)

甘木市



### 概ね20代オフサイト

甘木市で組織風土改革のためにオフサイトミーティングにチャレンジして約2年になります。その約2年前に話は遡りますが、まずオフサイトとの出会いの場として、全職員対象の柴田昌治氏の講演会がありました。そして、約1ヵ月後にとりあえず体験しないと始まらないということでしょうか、希望者参加による階層別体験オフサイトが開催されました(私は事務局ではないのでこんな書き方になりました)。

私は講演会の後にあった柴田さんを囲んでのオフサイト(みたいな対話会)に出て、オフサイトとは「普段言えないことが言えて、普段聞けないことが聞ける場」みたい感じていました。なおかつ、会場が市役所から遠く離れた山の中の「あまぎ水の文化村」という施設の会議室だったので、「なんであんな所まで行くのかな」と思う反面「何かあるに違いない」と、どちらかという不純で興味本位な動機を抱きつつ階層別(具体的には20代オフサイトですが)体験オフサイトに参加しました。

この体験オフサイトは私の期待を裏切らない「本音を言えて本音を聞ける場」でした。

私もその場の雰囲気に乗せられ、参加者とプロセスデザイナーの地上さんに相当グチを聞いてもらいました。あんまりこいう言葉は使いたくありませんが、とにかく楽しかったです。

そして、もうすぐ帰る時間かなという時になって、おもむろに地上さんが切り出されました。「この会を続けたいとは思いませんか？ それには世話人が必要です。どなたか引き受けていただけませんか」。みんなそのお話を途中までは「ウンウン」と聞いていたのですが、途中から下を向いたりして「ちょっとヤバイかも」みたいな雰囲気になりました。

沈黙の時間がおそらく十数秒くらいあったのでしょうか。しかし私としてはとにかくたのしい気分でしたし、第一この沈黙が耐えられないんです。「どうしよう」とキョロキョロしていたら事務局と目が合いました。「やってみれば。やれ、やれ」みたいな目配せをしています。思わず「ぼ、僕がやります」と世話人に立候補してしまいました。魔がさしたのかもしれませんが。

私が世話人になった理由は、体験オフサイトがとにかく楽しかったことと沈黙に耐えられなかったことの二つです。それが2001年3月の出来事で、私一人で世話人をするにはやっぱり不安がありましたので世話人をあと4人ひっぱりこんで(後にもう1人ひっぱりこむことになります)、「概ね20代オフサイト」がスタートしました。

そして、記念すべき第1回のオフサイトミーティングは3月27日に開催しました。参加者は14名。夕方5時半スタート。ぶっ続けで3時間のオフサイトでした。このオフサイトでは一応結論を出しました。

1. 市長にも是非「大きい名札」を付けていただこう！(「大きい名札」とは、若手を中心につける人が増えつつあった名刺大のネームプレートのことで、各自ひとこと(ex:遠慮なくお尋ねください、気持ちの良い対応を心がけています)を記入していました。
2. 勉強会を開こう！(具体的には財務会計勉強会の話をしていました)
3. オフサイトの動きを(庁内向けの)新聞などに出していこう！
4. 朝礼などをやってみたらいいのではないかな？(職場に意思伝達の場を作っていこう！)
5. グループウェアを有効活用しよう！(庁内LANの中で意見交換をするオフサイトフォーラムを開設しよう！)

ひとりの力ではどうにもならないし、普通だと誰に相談すれば実現するのもよく分からない5つです。この第1回目のオフサイトは「職場会議には恐れ多くて提案できないような小さな提案をこの場だと普通に言えるかな」と思える場であり、「へー、この人こんなこと考えてるんだー」という仲間再発見の場でもありました。

また、参加者のうち初めてオフサイトに参加した人からは「オフサイトミーティングの雰囲気が分かって良かった」、他のオフサイトと合わせて2回以上参加したことがある人からは「今回は発言しやすい雰囲気だった」、「顔ぶれがあんまり変わらなくなってきたので、もっといろんな方の意見も聞いてみたい」という感想も出ていました。

不慣れな世話人たちの不安をよそに、とりあえず開催した第1回目の「概ね20代オフサイト」。概ね20代オフサイトのネットワークと分科会への派生はここから始まりました。